



国分寺市議会議員
こさか 小坂まさ代



国分寺市議会議員
たかせ 高瀬かおる

◆9月議会一般質問◆

1. 新型コロナウイルス感染症対策について(1)PCR検査について(2)自宅療養者生活支援事業について(3)新型コロナウイルスワクチン接種について
2. 気候変動に関わる取組について(1)プラスチックごみの減量について(2)緑の確保とナラ枯れについて(3)エネルギー施策について
3. 生活困窮者自立支援について(1)相談件数の推移について(2)食の支援について(3)学習支援について

コロナで生活困窮

ニーズにあった支援策を！

コロナ禍が長引き、自粛の影響をともに受けて困窮するひとり親世帯や、飲食店をはじめとする中・小事業者等への各種支援策は、一時的なものにすぎず、生活困窮に係る相談件数は大幅に増えています。

今年9月から社会福祉協議会で食料配布の支援が始まりました。なかなか見えにくい貧困の実態を把握するためにも、この動きと連携し、ニーズにあった事業の実施を求めました。

新規相談件数	平成31年度	令和2年度
生活困窮者自立支援	339件	1,022件
内)住居確保給付金	86件	869件

また、子どもたちの学習支援が行われていますが、公共施設の使用に時間や人数の制限があるため、一人当たりのコマ数が減っていることがわかりました。子どもたちの居場所ともなっている重要な場です。感染症対策をしながらの継続を求めたところ、「いざいざも福祉協議会と連携し検討する」との答弁がありました。

今後、経済的、精神的困難に陥っている方々の生活再建に向けて提案していきます。

(高瀬かおる)

決算特別委員会報告

令和2年度国分寺市一般会計歳入歳出決算の認定に賛成

コロナ対策に追われた一年でしたが、一般会計では、実質収支で18億円の黒字でした。基金全体(貯金)は、前年度に比べ5億円以上積み増し135億円に、地方債(借金)は、未償還額を約8億円減らし270億円と、一定の財政規律を保っています。

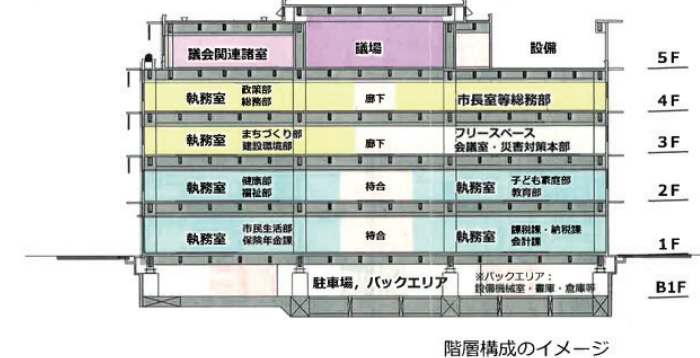
新庁舎建設等特別委員会より

今年度より関係各所にヒアリングしながら基本設計が進んでいます。10月の市民懇談会では、西国分寺駅からの動線や西側への日照が遮られないか、近隣住民のプライバシーは配慮されているのかなどの声が寄せられました。

今後のスケジュール

設計 (20か月)	施工 (20か月)	移転
令和4年1月 基本設計完了・実施設計着手	令和4年12月 建設工事着手	令和7年春 新庁舎供用開始
令和4年2月 埋蔵文化財発掘調査着手	令和6年9月 竣工	
令和4年11月 実施設計完了		

市民懇談会の資料より



階層構成のイメージ

主な特徴としては、手指消毒剤など感染症予防物品の購入や医師会への協力金など93件の感染症対策事業を実施し、その金額は147億3400万円となりました。そのうち特別定額給付金に関する経費が127億1300万円ですが、全額、国の交付金です。他の事業にも国や都の交付金などを活用し、市の一般財源としては、約2億円の支出です。また、様々な企画や事業が中止・縮小され、中でも、小・中学

生の貴重な体験の場である移動教室や修学旅行の中止は、非常に心苦しい決断でした。これら執行できなかった金額の積み重ねも、黒字につながった要因です。

このように、決算上は落ち込んでいませんが、引き続きコロナ禍の市民の経済的、精神的な打撃や不安への対策が必要です。市民の中に積極的に出向き、きめ細かに市民生活の実態や希望を聞き取り、市政運営に反映することを求めました。(高瀬かおる)

子どもと保護者の不安に向き合い、ていねいな対応を！

小・中学校の対応について

子ども感染者数が日に増大し、日野市、調布市など夏休みを延長した自治体もありましたが、国分寺市では市からの説明はなく予定通り8月25日に二学期を開始し、多くの子どもたちは不安なままの始業となりました。今後はひとりひとりに寄り添いしっかりと支えていく姿勢を、わかりやすく心に届く言葉で発信してほしいと求めました。

教育長からは「まずは各校の校長がしっかり伝えることが基本。今後は状況に応じて必要な発信をしていきたい」との答弁でした。オンライン学習指導については「現在の状況については、学級閉鎖等の場合にはオンラインの活用が主になることを想定して準備中。様々な事情により環境が整わない場合には学校の教室開放も検討」とのこと。コロナ禍で

あっても子どもたちの学びを止めない為に、市としてできる限り個別丁寧な対応をするべきです。

保育所の休園について

国分寺市では、保育所職員または園児の感染が確認された場合、濃厚接触者の有無や範囲が特定されるまでの間は、園全体を臨時休園としているため、8月には12園のべ39日の臨時休園があり、現場の保育園では多くの混乱がありました。仕事を休むことが困難な場合に利用できる都のベビーシッター利用支援事業を導入している自治体もありました。検討を提案しましたが、「ニーズや他市の実施状況等について研究していく」という答弁でした。いざという時の選択肢を一つでも増やしていくことが重要だと考えます。

(小坂まさ代)

厚生文教委員会より

都の子供家庭支援区市町村包括補助事業として、東戸倉のプレイステーションでの新たな子どもの仕事体験、居場所づくり推進事業が始まります。ウッドデッキをつくり、乳幼児親子の交流の場(土日昼間)、不登校や引きこもりの子どもたちのための居場所(夕方)カフェが、来年から開始予定です。

また、トレーラーハウスの駄菓子屋を作り、カフェや駄菓子屋の運営を子どもたちと一緒に、社会参加のきっかけをつくっていきます。年内に施設を整備し、来年1月からスタッフが中心となり、まずは居心地の良い場づくりから始めるとのこと。楽しみですね！

都立小児総合医療センターで府中市、国分寺市、国立市の方が利用できる病児・病後児保育が2021年12月よりスタートします。生後5ヶ月から6年生まで利用可能ですが、事前登録が必要です。生活保護世帯、市民税非課税世帯の方は無料で利用ができます。(小坂まさ代)

西国分寺駅 東側周辺地区 まちづくりの今

西国分寺駅東側には、都立多摩図書館、東京都公文書館が建設され、今後は国分寺消防署、新庁舎の建設が予定されています。以前より市民の皆様から「西国分寺駅南口から府中街道に抜ける武蔵野線のガード下が非常に危険」との指摘があり、東口改札の設置は重要課題となっています。また、にぎわいのあるまちへと店舗や飲食店を望む声も多くあります。平成30年度には、西国分寺駅東側の広い範囲での課題抽出や課題解決のための都市計画等の手法について整理されましたが、具体的にどう進めるのか、引き続き検討しています。ただ法的な整理も含め難しい課題も多く、まだまだ時間がかかりそうです。そのようなか、武蔵野線のガード脇の建物が解体されました。道路拡幅のための用地買収を交渉中とのことで、必要な経費が補正予算に計上されました。交渉が成立するよう見守っていきます。

(高瀬かおる)